

「JENESYS2.0」

2015年度中国高校生訪日団 第2陣Aコース

訪問日程 平成27年9月8日(火)～9月16日(水)

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した2015年度中国高校生訪日団第2陣Aコース計125名が、9月8日から9月16日までの8泊9日の日程で来日しました(団長=侯建国(ホウ ジェン グウオ) 河北省教育庁国際協力と交流處處長)。

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は、日本各地を訪問し、防災に関する視察を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、学校交流や、農家民泊等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

9月8日(火)

成田国際空港より入国、オリエンテーション

9月9日(水)

セミナー「日本の防災・減災について」、皇居見学

第1・2分団：西東京消防署視察

第3・4分団：東京消防庁消防学校視察

歓迎会

9月10日(木)

第1分団：富山県へ移動、福岡防災ステーション視察、高岡古城公園見学

第2分団：新潟県へ移動、川口きずな館視察、朱鷺メッセ31F展望室見学

第3・4分団：大阪府へ移動、大阪城・天守閣見学、大阪市阿倍野防災センター視察

9月11日(金)

第1分団：富山県立伏木高校訪問・交流、海王丸パーク見学

第2分団：敬和学園高校訪問・交流

第3分団：羽衣学園高校訪問・交流

第4分団：堺市博物館視察、高石市役所訪問、大阪府立高石高校訪問・交流

9月12日(土)

第1・2分団：群馬県へ移動、農家民泊

第3・4分団：ホームビジット

9月13日(日)

第1・2分団：伊香保温泉街見学、卯三郎こけし絵付け体験

第3・4分団：神奈川県へ移動、総持寺座禅体験

9月14日(月)

第1分団：群馬県立吉井高校訪問・交流、ワークショップ

第2分団：群馬県立渋川青翠高校訪問・交流、ワークショップ

第3・4分団：横浜清風高校訪問・交流、ワークショップ

9月15日（火）

大学訪問（明治大学）、商業施設視察

歓送報告会

9月16日（水）

第1・2分団：成田国際空港より出国

第3・4分団：羽田国際空港より出国

3 写真

	
<p>9月9日 明治大学危機管理研究センター 野上達也研究推進員によるセミナー(東京都)</p>	<p>9月9日 明治大学危機管理研究センター 野上達也研究推進員によるセミナー(東京都)</p>
<p>9月9日 明治大学危機管理研究中心 野上達也研究推進員做专题讲座(東京都)</p>	<p>9月9日 明治大学危機管理研究中心 野上達也研究推進員做专题讲座(東京都)</p>
	
<p>9月9日 西東京消防署視察(東京都)</p>	<p>9月9日 東京消防庁 消防学校視察(東京都)</p>
<p>9月9日 考察西東京消防署(東京都)</p>	<p>9月9日 考察東京消防庁 消防学校(東京都)</p>
	
<p>9月9日 歓迎会 中国の高校生ら(東京都)</p>	<p>9月10日 福岡防災ステーション視察(富山県)</p>
<p>9月9日 歓迎会上中国高中生合影留念 (東京都)</p>	<p>9月10日 考察福岡防災中心(富山県)</p>



9月10日 川口きずな館視察（新潟県）



9月11日 富山県立伏木高校訪問・交流（富山県）

9月10日 考察川口 KIZUNA 館（新潟県）

9月11日 访问富山县立伏木高中・交流（富山县）



9月11日 富山県立伏木高校訪問・交流（富山県）



9月11日 敬和学園高校訪問・交流（新潟県）

9月11日 访问富山县立伏木高中・交流（富山县）

9月11日 访问敬和学園高中・交流（新潟県）



9月11日 敬和学園高校訪問・交流（新潟県）



9月11日 大阪府立高石高校（大阪府）

9月11日 访问敬和学園高中・交流（新潟県）

9月11日 访问大阪府立高石高中(大阪府)



9月12日 農家民泊（群馬県）



9月12日 ホームビジット（大阪府）

9月12日 農家民宿（群馬県）

9月12日 家庭訪問（大阪府）



9月12日 ホームビジット（大阪府）



9月13日 卯三郎こけし 絵付け体験（群馬県）

9月12日 家庭訪問（大阪府）

9月13日 体験绘制卯三郎木娃娃（群馬県）



9月13日 卯三郎こけし 絵付け体験（群馬県）



9月13日 総持寺 座禅体験（神奈川県）

9月13日 体験绘制卯三郎木娃娃（群馬県）

9月13日 总持寺 体验坐禅（神奈川県）



9月14日 群馬県立吉井高校訪問・交流（群馬県）

9月14日 访问群馬县立吉井高中・交流（群馬县）



9月14日 群馬県立渋川青翠高校訪問・交流（群馬県）

9月14日 访问群馬县立渋川青翠高中・交流（群馬县）



9月14日 横浜清風高校訪問・交流（神奈川県）

9月14日 访问横浜清風高中・交流（神奈川県）



9月14日 ワークショップ（神奈川県）

9月14日 分組討論会（神奈川県）



9月15日 歓送報告会（東京都）

9月15日 欢送报告会（东京都）



9月15日 歓送報告会（東京都）

9月15日 欢送报告会（东京都）

4 参加者の感想（抜粋）

○今回の訪問で最も深い印象を残したのは、日本人の生活態度：人に迷惑をかけない、ということです。初めて日本に来て、最もよく話されているのが、「ご飯食べた？」や「こんにちは」でなく、「ありがとう」「すみません」であることがわかりました。日本人の生活態度と同じく、一挙一動に人間同士の尊重と他人のために思う私心のない気持ちが現れています。日本人のゴミの分類に対する固執は、外国人には少し偏った固執に見えますが、ここにも彼らの態度が出ていると思います。彼らは、他人に苦勞させるくらいなら、自分がその苦勞を買ってでます。防災センターでは、地震が来たときに、自助と共助を多くを選択し、たゆまぬ努力を惜しまない、自力更生の精神によって、日本と云う甚大な災害に見舞われた国をその歩みを止めるばかりか、どんどん強くしていったのだということ学びました。祖国に帰ったら、身を以て体験したことを努力実行し、自分の態度を変え、他の人の立場に立って物事を考え、他人を尊重し、自分を制し、公共秩序を順守することに気を付けたいと思います。そして、学んだ防災に関する知識を周囲の人に広め、防災意識を高めるための努力をしたいと思います。日本で見て感じたことを同級生に紹介し、日本のことを深く理解してもらい、中日友好交流の若者大使になりたいと思います。この他、私は日本人の真摯な態度を学びたいと思います。私たちの祖国は急速に発展していますが、祖国復興という大きな任務が私たち世代の共通の努力目標です。日本の都市と農村の一体化と現代化建設はまさに我が国が努力しているプロジェクトです。学んだ知識を借りれば、私たちはより良い祖国を建設できるはずですが、同時に今回のプログラムに関わったすべての人に感謝します。誰を欠いてもこのように円満なプログラムにならなかったと思います。ありがとうございました。

○（一）最も印象深かったのは次の2つです。

ひとつ目は、私たちがホストファミリーと別れた時の情景です。一緒に記念写真を撮ったり、互いにプレゼントを送ったり、抱擁したりして、別れを惜しみました。私たちはバスの中で外の日本のホストファミリーに手を振り、感謝と惜別の気持ちを伝えました。ホストファミリーもバスの外から私たちとお別れをし、車窓まで近寄って私たちと握手をしたりしてくれました。女子生徒の何人かは涙が思わず溢れていました。バスが走り出し、曲がり角を曲がるまで、日本語の「ありがとうございました。」が、田んぼ道に響き渡っていました。この時、私はとても感動しました。

二つ目は、二つの学校で、日本の生徒に私が準備した手書きの絵葉書をプレゼントした時のことです。二人の男子生徒が封筒に入っている絵葉書はラブレターかと私に尋ねました。当然、これは冗談にすぎません。でも、このことで、わたしの恥ずかしさや緊迫感のほか、緊張の気持ちを解きほぐしてくれました。

（二）帰国後、私は周囲に次のことを伝えたいと思います。

- ①日本の人々はほとんどが友好的で、平和を好み、戦争に反対しています。政府の行為のみを見て、それがすべてと考えてはいけません。
- ②日本の教育は十分手本として学ぶ価値があります。国民性、公序良俗意識、環境保全意識、防災意識、自助意識等幼い頃からの教育で育まれるものです。

- ③日本の伝統文化に対する継承や新しい文化の流行はどれも大変優れていて、尊敬と学ぶに値します。
- ④防災は減災の必然の選択であり、災いを未然に防がなければなりません。
- ⑤中日友好は、私たち一人一人一緒に努力する必要があります。

○今回の訪問によって、私の日本に対する印象は、根底から覆りました。そして、日本という国が心から好きになりました。

まず、日本に来たとき、室内、屋外に関係なく、あらゆる場所がとてもきれいで、ゴミが全くなく、街中の設備は完備されていて、整然と秩序が保たれています。これには私もとても驚き、日本に対する最初の印象はとても良いものとなりました。

日本人と触れ合った後は、私は、この民族の礼儀正しさに深く心を動かされました。ここの人達はすべての人に礼儀正しく、時に礼儀正しすぎて、ちょっと恥ずかしいくらいです。このような礼儀正しさには深く感服させられ、時にはとても感動を覚えます。学校交流の際は、生徒たちのフレンドリーさに触れ、美しい友情を深く感じました。

従って、帰国後、私は中国に対して日本の文化を宣伝し、中国人が日本に深く感服し、日本に対する印象を変えるよう働きかけ、同時に学校内で日本文化を広め、日本人が礼儀正しく心が広く思いやりがあることを中国人に伝え、周りの友人や家族一人一人に伝えていきたいと思います。

○短かった訪問見学交流プログラムももうすぐ終了してしまいます。確かにプログラムは短期間でしたが、日本は僕に多くの多くのこと、例えば日本の科学技術や今の日本の文明などなどを教えてくれ、中でも一番強く印象に残ったのは日本の教育についてです。

日本の教育の素晴らしさは早くから世界的に高く評価されてきました。日本の教育が先進的であったからこそ、日本は世界の強国のひとつとして躍り出たのだと僕は思います。日本の教育は生徒が社会で生き抜く力を身につけることを目標としており、一人ひとりの生徒の出発点である資質教育に気を配り、呼びかけを行っています。対して中国はこの分野において大きな課題を抱えていると思います。

帰国した後は、僕の見たこと、聞いたこと、感じたこと、学んだことを中国に持ち帰り、報告講演会や資料配布、ネットを利用して僕の周りの人たちに発信し、小さな一歩から周りのみんなを動かし、少しずつ中国国民の資質を向上させていきたいです。美しい中国を建設するため、中日友好の良き大使となるため、自身の努力をしていきたいと思っています。

○今回の訪問で最も印象深かったのは日本の高校との学生交流です。日本の学生は僕たちが想像していたような堅苦く表に出さないタイプではありませんでした。同年齢同士の付き合いの中ではとても自然でおおらかで、自分の個性をより良く伸ばしていました。中国と日本の両国の教育制度に違いがあることを深く理解したので、帰国後には先生や同級生との活動を通じ、ネットでの伝達などの方法も使って政府にもこのことに注目するよう促し、我が国の教育制度をより優れたものになりたいと思います。

日本の環境保護活動はとても優れていて、日本の国民の環境保護の意識と責任感とは

でも強く、その上一部の人ではなく多くの人がそれを実行していました。帰国した後は、クラスで宣伝活動を行い、身近な場所の清掃をしっかりと行い、モデルとなり、学校側に提案書を提出し、全校のイベントを企画し、生徒の環境保護への意識を高め、生徒がそれぞれの保護者に節水を呼びかけるなど、そこから社会全体の大きな環境を変化させたいと思います。

日本の自然災害の防除策はとてもレベルが高く、それは頻発する災害が日本に豊富な経験を蓄積させたものであるため、我が国もそれを有効的に参考とすべきだと思います。これからの暮らしの中で、放課後の時間を利用して防災とその支援についての資料を集め、同級生らに伝えたいと思います。

○今回の訪問の中で、日本の完備された防災設備に最も強い印象を受けました。例えば地震対策として、日本の農村部の住居は多く木製の構造で、家屋の倒壊による死傷被害を軽減しています。また日本の都市部の住居（マンション）は高い耐震性能が備わっていることが一般的で、衝撃波の影響を軽減する効果もあります。地震発生後には、日本の民衆の自衛組織がスピーディに行動し、被災者の（避難）配置も周到に行われ、被災地の人々は地震の歴史を忘れ去ることなく記念館を建設するなどしていました。

また火災災害については、一般家庭には消火器が常備され、緊急時には消防隊員がスムーズに入れるよう割りやすい窓には赤い三角のマークをして準備しています。都市部であろうと農村部であろうと、消防ステーションは細やかに配置され、火災発生時には速やかに現場に到着できるようになっています。消防署の見学を通じ、日本の先進的な消防施設や消防隊員の高い能力を目の当たりにしました。

帰国したらここで見たこと感じたことの全てを周りの人に伝えたいと思います。僕が感じたことは、日本の自然環境や国民の防災意識、学校教育、国民の資質などの分野です。日本の森林率は68%ととても高く、日本は緑あふれる国であること。日本の学校は学生の将来の発展のための指導に重きを置いていて、学生の興味を引き出すことを重視していること、日本の社会秩序は整然としていて、国民は自発的に列に並ぼうとする意識が高いことなど、僕が感じた客観的な真実を僕の周りの人たちに伝えたいです。

○最も印象深かったことの一つ目は敬和学園高校との交流で、二つ目はホームステイプログラムです。敬和学園高校の歓迎式典の中で中国国歌を演奏してくださったことは、敬和学園高校の温かな思いやりの気持ちを感じ、衝撃を受けました。敬和学園高校の生徒の皆さんと私たちは厚い友情を築き、授業の体験までさせてもらいました。ホームステイプログラムも最高で、日本の伝統文化や日本人のことをたくさん知ることができました。

帰国したら、日本人の親切さや友好的なこと、日本人のサービスはきめ細やかで親切であること、おもてなし上手で友好的であることを周りの家族や友だちに伝えたいです。全方位的で真実の日本を皆に伝えます。日本人の環境保護の意識や、公共意識、高い責任感、人と人との信頼や友情、日本人の正しい礼儀を持って帰ります。日本人の防災減災の対策を皆に伝え、防災減災の重要性を紹介し、災害後の日本国民の人間性あふれる温かさを伝えます。日本の“自助、共助、公助”という考え方も同級生たちに伝えます。日本人の礼儀正しさ、礼節の道も皆に伝え、日本で感じたこと、わかったこと、

考えたことを周りのクラスメイト一人ひとりに伝えます。

○ホームビジットでホストファミリー宅にお邪魔したとき、田舎の生活はのんびりしてとても自然でした。中国の多くの方は、日本人は中国を敵視していると考えているけれど、実際にはそんなことはまったくありませんでした。おじいさんおばあさん達は外国人との交流がとても好きで、日本人特有の明るさとおおらかさで、情熱的にお客を迎えてくれ、七十歳過ぎの年齢でも童心を忘れていません。私は、これが多くの日本人の本当の姿なのだと確信しました。

日本のゴミの分別と防災減災の取り組みは実際の生活に直結していて、この分野の研究も深く、細かく行われています。中国でも、ゴミの分別と自分の命を自分で守る知識が普及することを願っています。

○

- ①日本の食事はどれもおいしくて、大好きになりました。
- ②日本人はみんな友好的で、良い人ばかりでした。
- ③日本ではすべての人が皆礼儀正しく、特に店の店員さんは特別でした。
- ④日本では多くのもののデザインが人に優しい配慮がしてあり、空間の利用率が高いと思いました。
- ⑤日本の高校生は勉強の負担が重くなく、高校生活がとても充実しているようでした。
- ⑥日本の公共救護設備(AED など)や防災施設は非常に完備されていました。

○今回の訪日で、日本人の資質、学校生活、社会問題などに強い印象が残りました。

まず、日本人の資質の高さについては、中国国内でも聞いていましたが、実際に日本に来て、それを強く体感しました。日本人はいつでもどこでも秩序正しく、列を作ってエスカレーターに並ぶなどの習慣を守っていました。仕事をするときには真面目でゆるぎなく、ゴミの分別も非常に細かくて、私たちも学ぶべきだと思いました。

次に学校訪問では、日本の高校生と交流をし、彼らの日常生活についても知ることができました。授業にも参加して、多様にあるクラブ活動にも参加しました。

最後に、社会問題についても発見がありました。なかでも顕著なのは、少子高齢化の現象が進んでいるということです。特に高齢化の問題は、中国でも日増しに深刻になっています。

○日本では、サービス業従事者の、職業意識が高いのです。店で買い物の際、店員は度々「ありがとうございます」「すみません」と口にし、満足の行く商品を選ぶまで、根気強く説明してくれます。雨の日は、バスのステップにタオルが敷かれ、傘を入れる袋が配られるので、床は清潔なままで、滑って転ぶこともありません。そして雨が上がる度に、運転手さんはバスの窓を拭いているのです。

日本では、人々の危機意識が非常に強いと感じます。ホテルに到着すると、スタッフはいつも避難経路を確認するよう注意を促します。どの客室にも懐中電灯が備え付けられており、ホテルによっては非常口まで設置されています。日本の消防隊員は厳しい研修と試験を経て、ようやく現場に出ることができるそうです。消防隊員の職能を向上させることで、消防隊員自身の生存率まで向上させており、こうした研修により、多くの不慮の犠牲を免れているのです。

日本の学校では、学生が部活動に参加するのは完全に自分の興味と趣味によるもので、上級生は下級生のために多くの世話をします。中国と比べて、日本の高校生の学業や入試のプレッシャーが少ないため、緩やかな環境のもと、多方面の能力を発展させることができます。

日本では、十分なインフラ整備がなされています。また個人の感覚に重きが置かれています。日本の緑化状況も良好で、住宅の前の花壇なども綺麗に整えられています。店舗は温かい雰囲気、至る所で心をこめてもてなされているかのように感じられました。

○日本人は生活の隅々にまで気を配っています。人目を引かない部分にまで、そうした気配りが表れていると思います。例えば洗浄便座は、保温や洗浄など細かい気配りの産物であって、これによって女子トイレは心地よさを感じられる場所へと変貌しているのです。雨の日、運転手さんが車を拭き掃除する、などなど、驚嘆させられてしまうところがこの国の魅力なのです。これ以外に、日本の家庭や学生のお客に対する手厚いもてなしも、私たちが学ぶべきもので、こうした態度は見ていると気持ちが良いものでした。両国の間には、最も誠実な友好関係が築かれるべきだと感じました。

中日友好万歳！